

# 令和6年度 みくま 事業報告書

## 1 総括

昨年度に引き続き、就労支援事業では弁当製造事業を中心に安定した収益が確保できているほか、利用実績も安定しており、概ね安定した事業運営ができています。しかし、弁当製造においては異物混入等の2件の事故があったことが大きな反省点となった。健康被害等の大事には至らなかったが、令和5年度にも2件の事故があり、危機管理意識や手法の改善が必要となった。これ迄事故発生後に後追いの再発防止策を講じることが多かったが、弁当製造の全工程をチェックすることで、起こりうる事故の可能性を想定し、事前に防止策を講じる取り組みを行った。これ以降、事故は起きていないが、引き続き事故防止の徹底に努めたい。また、利用者支援については、利用者の心情理解、職員間のチームワーク、個別支援計画の作成など全般的に向上が見られている。ただし、個別支援計画に基づいて支援を行うことや、計画と関連付けて記録をとることにおいては、まだ不十分なところもあり、次年度以降、引き続きスキルアップに取り組んでいきたい。

## 2 事業概要

- 1) 施設名 みくま
- 2) 事業種別 就労継続支援A型
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町2-1-12
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 17名
- 6) 利用現員 17名（令和7年3月31日現在）
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成25年 1月 1日
- 9) 職員  
管理者 1名  
サービス管理責任者 1名  
職業指導員 2名 （常勤換算1.4）  
生活支援員 4名 （常勤換算2.5）

## 3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

## 4 基本方針

- 1) 就労支援  
「みくま」の従業員として能力が発揮できるように、個々の状況にあった作業を提供する。また、一般企業で働く為のステップアップとして、就労に向けた相談や就職活動に関して支援する。
- 2) 生活支援  
利用者が安心、安定した生活ができるよう支援を行う。一般企業へのステップアップを希望している利用者に対しては、生活面等の課題を把握し就労に向けた生活全般の支援を関係機関と連携しながら行う。

## 5 実施事業（活動内容）

- 1) 就労支援事業
  - (1) 弁当製造・販売
  - (2) 清掃及び受注事業
  - (3) 緑化推進事業
- 2) 行事
  - (1) バスハイク（年1回実施）

6 日 課

開所・作業	7 : 30 ~ 12 : 20
昼礼	12 : 20 ~ 12 : 30
休憩	12 : 30 ~ 13 : 30
作業・記録等	13 : 30 ~ 17 : 30

7 重点課題・目標

1) 活動

(1) 就労支援事業の充実

① 弁当製造事業安定のため次のことを実施する。

ア. 安定収入を確保する

- ・近隣の企業や医療機関等へチラシの配布など営業活動を行い、新規に顧客を増やす。
- ・弁当の委託販売先を増やすための営業活動（電話・チラシ配布）を行う。

	1日平均 日替弁当売上	年間売上
令和5年度実績	237個	2,911万円
令和6年度目標	240個	2,949万円
増加分	3個	38万円

【成果と課題】

近隣の企業の研修や特別支援学校からの特別注文、建設現場からの注文などが増加し、販売数、売上ともに目標を達成した（下記表参照）。令和6年1月に実施した弁当のリニューアルや、顧客の新規開拓の効果などもあり安定した売上が確保できた。米をはじめとした原材料の値上げが続いており、食材費が増加したが、前述のように売上個数の増加により黒字収支となった。営業活動に関しては、メニューの配布などを継続的に行ったことや、関係機関からの紹介もあり、新規の顧客を32件獲得した。

◆弁当売上個数及び売上金額

	1日平均売上個数	売上金額
令和6年度目標	240個	2,949万円
令和6年度実績	264個	3,252万円（目標達成率：110.2%）

イ. 内容充実のための取り組み

- ・衛生管理の徹底 — HACCP（※1）の考え方を取り入れた衛生管理マニュアルを遵守するとともに、白衣や帽子の正しい着用方法や粘着ローラーの使い方の講習を定期的実施するなど異物混入防止を徹底する。
- ・弁当内容の充実 — 顧客満足度向上、飽きさせないために、主菜及び副菜の見直しを定期的に行うとともに、現在のメニューの完成度を高める。また、盛り付け方法や彩りを工夫し、購買意欲を促進する。

（※1）HACCPとは・・・安全な食品を製造するための製造工程の管理方法のこと

【成果と課題】

・衛生管理の徹底

4月に弁当にビニール片が混入する事故が発生し、異物混入対策の徹底など開封方法の見直し等を行った（事故の詳細と再発防止策は4-1）に記載）。また、9月に加熱が不十分な可能性のある鶏の竜田揚げを提供する事故があり、揚げ油の温度管理の徹底など再発防止策を講じた（事故の詳細と再発防止策は4-2）に記載）。前述の事故2件を含め令和5年9月以降に事故が4件発生しており、事業所としてのリスク管理に対する意識の低さを法人から指摘されるなど反省すべき点が多かった。新たに衛生管理に対する対策として「弁当製造におけるリスクチェック表」を作成し、事故のリスクの事前予測と対策を行い、それ以降事故は発生していない。また、令和4年度よりHACCPの考え方を取り入れた衛生管理マニュアルを導入し、日々チェック表を記入した。

・弁当内容の充実

令和6年1月に実施した弁当のリニューアル以降、大幅な弁当内容の変更は行っていないが、主菜の新メニューを3種類増加した。また、新たな仕入先1社との取引を始めるなど、顧客にあきられない

ことを意識し、新メニューの検討や試作を継続した。

- ② 新規作業を実施する。  
不定期の作業を含め、作業時間や人員を有効に使える作業を積極的に取り入れる。

【成果と課題】

上半期は弁当製造や清掃業務との兼ね合いで、新規事業は実施できなかった。

- ③ その他の作業を含め売上増加を目指す。(概算、単位：円)

	令和6年度目標売上	令和5年度実績	差額
弁当製造事業	2,949万	2,911万	38万
清掃作業	512万	506万	6万
緑化推進事業	100万	130万	△30万
利用者支援業務	18万	18万	0万
名刺の作成作業	19万	19万	0万
その他受注作業等	12万	10万	2万
合計	3,610万	3,594万	16万

【成果と課題】

就労支援事業全体では、年間売上目標の3,610万円に対して、3,871万円の売上があり、達成率は107.2%となった。(下記表参照)。弁当事業を始めとして、概ね安定した売上が確保できているが、米をはじめとする食材の値上げや最低賃金の上昇により弁当清掃事業の製造原価が増加している。今後も原材料の値上げや最低賃金の上昇は続く見込んでおり、収支状況によっては販売価格改定の検討も必要と考えている。

緑化推進事業については、当事業所と合同で作業を実施しているワークセンター夢の樹継続B、小平第二みどり作業所、バウムと8月に作業配分の見直しを行い、年間収入額が100万円から60万円に減額となった。

《概算》	令和6年度売上目標(円)	令和6年度実績	目標達成率
弁当製造事業	2,949万	3,252万	110.2%
清掃作業	512万	512万	100.0%
緑化推進事業	100万	60万	60.0%
利用者支援業務	18万	19万	105.5%
名刺の作成作業	19万	15万	78.9%
その他受注作業等	12万	13万	108.3%
計	3,610万	3,871万	107.2%

(2) 利用者支援の充実(PDCAサイクルの実施)

- ① 利用者個々の状況や希望に応じた個別支援計画を作成し、支援方針や目標を共有する。  
② 職員間の情報共有の基、計画に基づいた支援を行う。  
③ 支援経過を丁寧に記録し、情報共有や意見交換等による支援経過や成果について評価を行う。  
④ 課題解決に向けた取組と必要に応じて計画の変更、見直しを行う。

【成果と課題】

利用者全員と面談を行い、職員からの評価を伝えるとともに本人の希望を聞きとり、個別支援計画を作成した。職員間の意見交換や情報共有は活発に行え、チーム支援の実施やPDCAサイクルに関する意識は少しずつ向上していると感じる。また、概ね丁寧な評価とそれに基づいた個別支援計画の見直し及び作成はできていると感じる。令和5年度から改善に取り組んだ「計画に基づいた支援と記録に関する意識」に関しては、支援上の重点と記載内容が合致していない記録が減少してきているがまだ不十分と感じる。ケース記録においては、今後の支援方法や支援の方向性に関する記載が少なく改善に取り組んだ。少しずつ記載が増えているがまだ不十分と感じるため、令和7年度も引き続き改善に取り組んでいきたい。

## 2) 人材育成

### (1) 利用者の心情理解

- ① 傾聴による気持ちの安定化
- ② 長所の評価などによる意欲の向上

#### 【成果と課題】

- ①利用者とは概ね良好な関係が築けており、仕事面だけではなく私生活や体調、人間関係などに関する相談も多く、丁寧に対応できていると感じている。面談は、可能な場合は職員2名で行い、お互いの助言などを参考にすることで少しずつ相談支援スキルが向上していると感じる。また、相談や助言の内容をミーティングで共有し、意見交換など行うことで利用者の状況の共有や支援方法の統一が進んだ。
- ②令和4年度から、利用者の長所に目を向け、それを本人に積極的に伝える取り組みを行っている。職員ミーティングで利用者の良い点の発表が増えるなど、良い点に目を向ける姿勢や、それを利用者にも積極的に伝えることが根付いたと感じる。利用者からも前向きな発言が増えるなど、少しずつ良い影響が出てきていると感じる。

### (2) 利用者の職業指導の充実

#### 【成果と課題】

利用者に新たな作業に携わる提案を積極的に行うとともに、現在、携わっている作業が更に上達するようアドバイスをを行った。職員がOJTによる指導を行い、指導内容や結果などを職員間で共有することで職業指導に対する意識が高まり、利用者に応じて伝え方を工夫するなどスキルが向上していると感じる。事務作業や出荷作業、盛り付けなどの作業の習得や作業精度の向上が見られる利用者も多かった。

### (3) 職員の連携強化（利用者の直接支援以外の業務における相互補完・連携協働）

#### 【成果と課題】

日々のミーティングで作業予定や連絡事項を共有することが定着し、弁当製造のシフトや配達、回収の担当決めなどを検討する際に相互補完や連携協働を意識した意見交換や業務の割り振りが行えてきていると感じる。

## 3) 経営管理

### (1) 利用待機者の確保を行い経営基盤の安定を図る

- ① 近隣の関係機関リストをもとに、ワークセンター夢の樹就労移行支援、定着支援、baumと連携し、近隣の特別支援学校、就労支援センター、特定相談支援事業所、就労継続支援B型事業所等へ利用待機者の募集を行う。
- ② 法人機関紙およびホームページへ募集案内を掲載、チラシ配布、ポスター掲示などの広報活動により利用者待機者の募集を行う。
- ③ 令和7年度の安定した経営のため、報酬算定の基準となる就労継続支援A型事業所におけるスコアの点数増加の取り組みを行う（外部機関が実施する研修の受講や、他のA型事業所への視察など）。

#### 【成果と課題】

1日平均利用者数は14.1人となり、昨年度を0.1人下回った。（令和5年度実績14.2人）。令和5年度に取得していた就労移行支援体制加算がなくなったことで給付費収入は前年度の3,086万円と比較し237万円減額し、2,849万円となったが黒字収支を維持することができた。

令和7年度は近隣市の就労支援センターなどの関係機関や個人からの問い合わせなど見学15名、実習6名を受け入れ、実習者6名のうち3名が利用を開始した。また、別の1名は令和4年6月まで当事業所の利用者（雇用契約）として勤務していた経験があり、本人の人物や業務スキルを把握していることから見学と面接選考のみで利用を開始した。前述の3名と合わせ新規利用者は計4名となり、3月末時点の利用者数は雇用契約10名、利用契約7名の計17名となった。雇用契約1名、利用契約1名がそれぞれ受け入れ可能であり、令和7年度も利用者確保に継続して取り組みたい。

9月及び12月に報酬算定の基準となる就労継続支援A型事業所におけるスコア（以下スコア）の点数増加の取り組みとして施設長と職員1名が東京都ピアサポート研修を受講した。令和7年度以降のスコアの安定化につながる見込みである。

(2) 各種記録の整備など、事業管理に必要な事項の遂行を徹底するとともに、その経過等を確実に記録に残す。

**【成果と課題】**

事業管理に必要な会議・消防関係等の書類の整備は計画通り行えている。

(3) 経営状態を把握し必要な対策を講じる

毎月、月次試算報告を行い、財務状況について職員の理解を深め、経営的視点の共有を図ると共に、年度の収支予測を丁寧に行い、黒字収支に向けた目標を随時確認、または必要に応じて変更する。

**【成果と課題】**

職員会議で月次試算表をもとに経営分析の結果を報告し経営状態を毎月確認した。上半期の経営状況は概ね安定していた。

## 8 事故報告

### 1) 【ビニール片の混入】

4月に弁当の盛り付けの過程で白米の下にビニール片（弁当容器の包材の切れ端）が混入する事故があった。はっきりした原因は分かっていないが、容器のビニールをはさみで開封時にビニール片が落下したことに気付けなかったことが原因と考えている。また、異物混入事故防止に対する意識が低下したことや、実施している異物混入対策に関しても本来の目的意識が薄れ形骸化していることでビニール片に気付けなかった可能性が高いと考えている。

**再発防止策**

- (1) これまでの異物混入対策を徹底する。
- (2) 当面は使い捨て容器や蓋の開封は職員が行い、開封した袋や周辺を他の職員がチェックする。
- (3) 利用者、職員で開封方法やハサミの使い方などの講習や指導を改めて実施し、利用者の作業の精度などを確認した上で、利用者の開封作業を担当してもらう。
- (4) 容器や蓋の食材と接する面を下にして開封し、開封時にビニール片などが発生した場合でも盛り付け部などに付着しないようにする。
- (5) 盛り付け前の使い捨て容器や弁当箱を盛り付け台に置く作業は職員が行い、盛り付け前の異物混入確認を強化する。

### 2) 【加熱不足の可能性のある鶏の竜田揚げの提供】

9月に日替り弁当の主菜に加熱不足の可能性のある鶏の竜田揚げを提供する事故が発生した。法人内の5事業所で合計52食発見され、件数が多いことから外部顧客へ連絡し、加熱状態や味、食感などに違和感がないか確認した。外部顧客から加熱不足や味、食感の違和感などについての訴えはなかった。また、法人内、外部顧客ともに健康被害の報告はなかった。

**再発防止策**

- (1) フライヤーに食材を投入する前の油の温度確認を職員同士の声かけなどで徹底するとともに、今よりも温度表示部分大きいなど視認性の良い温度計を調査し購入する。
- (2) 揚げ時間を5分から5分30秒に変更する。
- (3) 加熱済食肉製品であっても揚げ終わる度に中心部の温度計測をするだけでなく、サンプルを半分に切り中心部の加熱状態を目視で確認する。

### 3) 【厨房内での転倒事故】

1月に職員が厨房内で転倒し鼻の打撲と軽度のむち打ち症と診断され、労働災害の適用を受けた。厨房内の床が油などで滑りやすくなっていたことが原因と考えている。本人は首に軽い痛みがあったものの日常生活に大きな支障はなく、翌週より業務に復帰した。

**再発防止策**

- (1) 厨房内の床が油などで滑りやすいため、清掃を徹底する。
- (2) 職員、利用者には厨房内では慌てず行動するよう改めて周知する。

## 9 苦情

- 1) 6月に当事業所の利用者（利用契約）1名より、コミュニティユニオン東京三多摩協議会を通して当事業所職員、利用者からのパワハラを受けたことに関する団体交渉の申し入れがあったが、この件について施設長が全利用者及び職員に聴取した結果、パワハラの事実が確認できなかった。以上東京都及び関連自治体に報告したところ、東京都からは雇用契約を締結していない利用者の場合は労働者にあたらないため、労働問題ではなく障害者総合支援法に則って解決するべきとの指導があった。東京都の指導に従い、利用者本人及び母、自治体や関係機関と会議を開催し、パワハラの実事はないことを伝えたとえ、事態改善に向けて話し合いを行ったが、会議後8月に当該利用者より当事業所を退所したいとの申し入れがあり同月に退所した。

## 10 その他の課題と成果

- 1) 6月及び7月の2回に分けて多摩小平保健所で利用者健康診断を実施した。

## 11 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間  
(2) 開所時間 午前7時30分～午後17時30分  
(3) 年間延開所日数 243日間  
(4) 平均活動時間 雇用契約者 5.3時間  
利用契約者 5.8時間

## 12 利用状況

- 1) 利用者延人員 3,434名
- 2) 1日平均利用人員 14.1名
- 3) 年間実習人員 6名
- 4) 就労者延人数 2名
- 5) 私事都合退所者延人数 3名

## 13 利用者状況（令和7年3月31日現在）

- 1) 年齢

20歳未満	0名
20歳以上30歳未満	0名
30歳以上40歳未満	5名
40歳以上50歳未満	6名
50歳以上60歳未満	5名
60歳以上70歳未満	1名
- 2) 障害の状況

愛の手帳4度	5名
愛の手帳3度	1名
精神保健福祉手帳3級	5名
精神保健福祉手帳2級	5名
身体障害者手帳 3級	1名
- 3) 通所手段

交通機関利用	4名	徒歩等	13名
--------	----	-----	-----
- 4) 居住状況

管内居住	10名	管外居住	7名
------	-----	------	----
- 5) 性別

男性	9名	女性	8名
----	----	----	----

#### 1.4 利用者工賃

##### 1) 雇用者一平均工賃

月額： 101,841円

時給： 1,163円 (参考) 東京都最低賃金

##### 2) 利用者一平均工賃

月額： 43,493円

時給： 400円

#### 1.5 環境の整備

施設内外の美化と利用者周辺の整理整頓につとめ、危険の防止に努めた。

#### 1.6 防災計画

災害時避難訓練を年2回実施した。